一、中日を離れたる獨立の會社となす事。
一、資本額は株式募集の關係上五千萬圓程度となす事。
一、製鐵所の建設地は九州に選ふ事。
一、製鐵能力は二百五十噸の鎔鑛爐二個を建設し一箇年三十四五萬噸の鑛石を使用して十五萬噸内外の銑鐵を製出し得る設備となす事

に略決定したるか輸入品並に資本に對する課稅の免除等政府に對する交渉事項及實行に關する精細の事項は未た決定せす是等は今後の會合に於て何分の決定を見るへしと。

◉久原製鋼所（戸畑）　大阪久原鑛業會社は戰亂以來鋼鐵の欠乏著るしきに鑑み一大製鋼所設立計畫を樹立し昨冬工場地選定に着手し戸畑鑄物會社鮎川專務同山田支配人主として其斡旋の任に當りたるか地理及ひ用水の關係上戸畑を以て最好地と認め近郊踏査の結果地下一間下は自然のコンクリートなる岩石層なるに加へ名古屋崎内灣若松築港埋立豫定地か海陸連絡地點として頗る適當せる等の條件を發見し一氣呵成に敷地十五萬坪の買收を終り一方名古屋崎外灣海面六十萬坪埋立出願を試み又同内灣若松築港會社埋立十一萬坪竣成に際し之か買收契約を結ひ用水は小倉市紫川に水利權を獲以て鞘ヶ谷に貯水池二十七萬坪の準備を圖り斯くて太宰政夫氏創立事務主任に九大教授君島工學博士設計囑託に何れも就任目下敷地實測に着手せるか九月頃完了を待ち第一期計畫に入る豫定にて泥田より名古屋崎に亘る八萬坪の地に對し起工すへしと尙其内容は未た詳細發表するを得さるも資本金千萬圓より三千萬圓内外を投じ製鋼十五萬噸の外諸機械製作に從ひ尙海陸連絡の必要より名古屋崎内灣埋立豫定地に船入場及ひ五千噸型汽船繫船壁を築設せんとの議あり若し之か實行不可能なりとせは小倉に築港し海上運輸の便に供せん計畫なりと傳へられ居れり。

◉安川製鐵所（黑崎）　安川敬一郎松本健次郎兩氏企畫の同所は昨今鐵材の暴騰に因し開始せられたるものに非ずして實に一昨年來の計畫なるが時恰も支那動亂に會し或は松本氏の病氣に妨けられ漸く昨冬支那鑛山の踏査を終り計畫決定を見しものにて黑崎海岸十三萬坪を買收終了し他の準備に着手せり尙海運が戰亂中なると鐵材又暴騰の最中とて機械の購入容易ならす製鐵着手は恐らく二年後なるへく海上施設は製鐵所三期擴張地海岸より二百間の浚渫を行ひ製鐵所礦石航路より分岐航路を掘穿せは可ならんとのこと又工場用水は紫川を久原に先取せられたるも目下着目中の堀川にして解決せは却て利便多かるへきかと云へり。

◉栗木鐵山會社和解　一時廢鑛の悲境にまて陷れる岩手縣栗木鐵山株式會社は歐洲戰亂勃發後鐵價の暴騰に伴ひ漸く活況に向はんとしつゝありしか之を見たる一部株主は遽に之か乘取策を講し、遂に五月二十八日木村仁太郎外五十餘名の計畫により盛岡市に臨時株主總會を招集し舊重役全部を解任し代ふるに自派代表者を選任することを決議せり之が爲め舊重役より決議無效の訴へを提起し爾來盛岡地方裁判所に係爭紛擾中なりしか今回漸く相互妥協の結果和解契

約を締結し新舊役員全部辭表提出の上改めて之を選任することゝなせり從つて去る七月十日東京地學協會に開催せる舊重役派の招集せる臨時總會に於ても會議事項は全部決議を延期し單に右和解契約の承認臨時總會招集の件を可決して散會せり。

◉神戸製鋼所擴張　曩に千二百噸の水壓機を增設して事業擴張を圖れる神戸製鋼所は今回更に千二百噸の水壓機を增設すると共に棒鐵角鐵の製造をなすの外砲身魚型水雷等の軍器をも製造する事となり目下準備中なるか棒鐵角鐵は昨今一般の需要多く頗る好成績を告げつゝあり尙將來同所は現埋立地完成工場增築と共に板鐵、軌條等の製造をも試み室蘭製鋼所と東西相對抗するの準備となす由。

◉鋼管擴張完成期　日本鋼管會社の擴張事業たる鐵管、鐵角物、鐵丸棒等月產凡そ二千噸の增加製造を目的とせる工事は目下進行中にして七月中には竣成すへく然る上は年額五萬噸の製品を得へしとなり。

◉亞鉛業勃興　世界の亞鉛國と日本、世界の亞鉛工業國に於ける日本の地位如何と云ふ問題に付戰亂後の形勢は獨白の製造量頓と明かならさるも工學博士齋藤大吉氏の說明に基き大正二年の統計に徵すれは同年の世界亞鉛產額約百萬噸、此內譯は

米國	三二〇、〇〇〇噸	獨逸	二八五、〇〇〇噸
白國	二〇〇、〇〇〇	佛國	七〇、〇〇〇
英國	六〇、〇〇〇	和蘭	二七、〇〇〇
墺太利	二五、〇〇〇		

なるか尤も米國は今後更に著しき發展を示し昨年の產額は五十一萬噸となれり翻つて日本の產額如何を調査するに各會社共極めて內容を秘密に附せるも大約左の見當に在るは疑ふ可らす

大阪亞鉛	二〇、〇〇〇噸	三井	一〇、〇〇〇噸
高田商會	六〇〇	久原鑛業	五〇〇
鈴木	一、〇〇〇	其他	七、九〇〇
合計	四萬噸		

即ち新進の日本として既に和蘭、墺太利を凌駕し佛、英に次くの第六位に進みたること甚た喜ふ可きの現象なれと更に米、獨、白の三大亞鉛國に對比すれは未た幼稚の域に在るの誹謗を免れす。

▲新會社の勃興　亞鉛製錬の巨擘は戰前疾く事業に着手せる三井及藤田組の大阪亞鉛にして前者は普通亞鉛を主とし後者は純亞鉛を專ら製造し其產額昨年一萬六千九百八十五噸此外普通亞鉛三千三百十噸、亞鉛末四百七十九噸あり近く生子亞鉛、電氣銅の製造を開始する筈なるか前述の如く高田、鈴木、久原の富豪亦續々亞鉛の製錬を開始し其外東京にて資本金百萬圓の日本亞鉛會社創立せられ橫濱の茂木商店亦斯業に着手の計畫あり岡山に福澤桃介氏等の大工場建設目論見あり是等は何れも相當大規模の經營に屬するも更に小規模の工場は最近關西方面にて六十箇所を算するに至